

学校評価(自己評価)

教育目標	児童生徒の病状、障害に応じた教育を行い、一人一人の持てる力を伸ばし、進んで社会参加できる人間を育成する。
学校経営方針	○ 児童生徒の個性に応じた質の高い教育実践の充実 ○ 児童生徒の心身の健康や人権を守る、安心・安全な教育環境の整備 ○ 学校・家庭・病院・地域が連携した学校づくりの推進 ○ 教職員が一人一人の力を発揮する、やりがいのある学校づくりの推進

重点目標(推進担当)	評価項目(各学部、分掌部で1点)	評価	成果及び改善策
○児童生徒の個性に応じた質の高い教育実践の充実 ●病弱教育についての専門性向上のための研修や授業研究の推進 ●教材の工夫やICT 機器の活用等による分かりやすい授業の推進	【院内学級】 ・児童生徒の実態に応じた、主体的に取り組んだり、表出したりできる授業を行う。	A	・授業や児童生徒の様子を情報共有し、授業改善のヒントを教員間で助言することができた。引き続き、その助言を手掛かりに授業改善を図り、児童生徒が主体的に参加できる授業を考え、実践していく。 ・児童生徒が興味関心を示す動画などを提示するために、iPad やタブレットを積極的に活用することができた。 ・情報共有では、児童生徒の自主的な動きや表出の場面を動画や静止画を活用し担当していない教員でも確認できるようにした。
	【中学部】 ・生徒が安全に安心して学べるように学習環境を整え、学習内容について工夫する。	A	・テストの解答用紙、検査結果、事例検討会の記録などを回覧したり、生徒の様子や課題を随時情報交換したりして、必要な支援を共有して授業にあたることができた。 ・日々の授業で電子黒板やモニター、デジタル教科書を活用し、わかりやすい授業の実践を推進することができた。重複学級では、写真や動画を活用したり身近な物を教材としたりすることで、生徒が関心や見通しをもって学習に取り組む様子が見られた。また、体調管理が必要な生徒については、リモート授業を行い、無理なく学習に取り組める環境づくりを行うことができた。
	【高等部】 ・ICT 機器やコンピューターソフト、アプリなどを授業の内容に合わせて取り入れ、生徒の学習への意欲や理解度を高める。	B	・対面やオンラインでの授業で、ソフト や電子黒板を活用して分かりやすい授業を展開することができた。また、リモート授業実施時に、効果的な板書の 仕方や教材の提示方法などを工夫することができた。 ・教材の活用例を一覧にしたり、他の 授業に取り入れたりすることができな かったので、教員間で共有し他の授業 でも活用できるようにするための方法 を考えていく必要がある。
	【学習指導部】 ・小中学校、高等学校の交流相手校と連携し、校内で十分に共通理解を図りながら児童生徒の実態に合わせた活動内容を検討し、交流及び共同学習を実施する。	A	・本校の実情や児童生徒の実態をしっかりと伝えし、実態に合わせたねらいと活動内容を検討して計画し、交流 及び共同学習を実施した。 ・交流相手校との打合せを記録し、校内で報告するなど、相手校と校内の両面で十分に連携し共通理解を図りながら取り組んだ。 ・岡本西小、矢板高でガイダンスを実施し、理解促進、啓発に努めた。

			・河内中ではガイダンスは行わず、事前に自己紹介シートをお渡ししている。また、古里中との交流及び共同学習の在り方について検討中である。
○児童生徒の心身の健康や人権を守る、安心・安全な教育環境の整備 ●感染症の予防と健康指導の充実 ・連携病院の感染症対策に関する助言を踏まえた安全な環境の整備 ・児童生徒の一人一人の疾病への配慮と指導の実践 ●防災教育の推進、安全対策の充実 ●教職員の人権意識の高揚と、児童生徒の心情に寄り添った指導の徹底	【小学部】 ・教員、養護教諭、学校看護師が連携し、児童に対して安全に期した対応をしながら、児童が安心して学習活動に取り組めるようにする。	B	・年度途中、医療的ケアの内容が変わった児童のカニューレ誤抜去訓練を実施でき、具体的な動きを確認することができた。 ・緊急性が高い児童については、実際に近い訓練を細やかに行うことができたが、そのほかの児童についても、教員同士で共通理解を図る場や訓練を次年度は行っていく。
	【おおり分教室】 ・分教室教員の安全面や衛生面への意識を高め、児童生徒が安全に学習できる環境の整備に努める。	A	・病棟の協力を得て、分教室教員に必要な研修を実施し、教員の意識向上につなげることができた。教員が自ら学習環境整備への気づきが生まれ、改善につなげることができている。今年度は、手洗い研修の内容を、児童生徒への指導にも取り入れることもできた。 ・一方で、教材の扱いや衛生管理の面で病棟から指導を受けたこともあり、分教室という性格を考えると、引き続き教員の意識を高めていく必要性を感じる。
	【健康安全指導部】 ・児童生徒の病状を把握し、アクションカードを用いた訓練を通して、緊急時における教職員の迅速な対応を身に付ける。	B	・各学部、学級ごとに、緊急時の対応について話し合ったり、フローチャートやアクションカードを用いて訓練を実施したりして、学校看護師や出授業の教員とも情報共有をすることができた。しかし、まだ実際の動きの中で、スムーズに対応できない場面もあるため、今後も継続して取り組んでいく。
○学校・家庭・病院・地域が連携した学校づくりの推進 ●関係機関と連携した取り組みの充実と積極的な発信 ・個別の教育支援計画等の活用による関係者間の連携の推進 ・積極的なホームページの発信・地域との連携の推進	【渉外部】 ・地域や関係機関と連携し、情報を得ながらよりよいPTA活動を行う。	A	・教養講座は河内地区まちづくり協議会の方から情報をいただき検討することができた。 ・講師を依頼し、レジキョーホルダー作りを実施した。保護者にも好評で、参加した保護者は楽しく活動する様子が見られた。保護者同士で交流を図り、情報交換をするよい機会にもなった。
	【進路・卒後支援部】 ・進路実現に向けて主体的に取り組めるよう進路情報を提供する。	B	・昇降口の掲示板を活用し、進路行事の周知をしたり、進路開拓先を回覧したりして情報提供を行った。 ・教職員に見学したい事業所についてのアンケートを取り、それをもとに夏季休業中の事業所見学を計画・実施した。また、保護者の関心が高い内容の進路研修会を実施したことで昨年度より参加者が増えた。 ・高等部の担任に進路指導の手引きを渡し活用を促したが、意見交換まではできなかった。より使いやすいものに見直していけるとよい。
	【支援部】 ・本校への転入学を考える児童生徒や保護者に対し、関係機関と連携を図りながら、安心して参加できる体験学習や教育相談を実施する。	A	・関係機関と連携を密に図り児童生徒の実態把握に努めつつ、本人、保護者、担任等が得たい情報を適切に提供することで円滑な就学相談を実施できた。 ・市町教育委員会との連携については特別支援連絡協議会において情報共有を図ることができた。

			・高校生支援について、復学の際、病棟関係者、保護者、在籍校と連携し、共通理解を図ることでスムーズに復学することができた。
○教職員が一人一人の力を発揮する、やりがいのある学校づくりの推進 ●一人一人の教職員が力を発揮し、相互に支え合える学校づくり ・教職員の連携・協働体制の確立 ・互いに学び合い、意見交換できる環境、風土の醸成	【教務部】 ・統合型校務支援システムの活用方法を習得し、推進していく。	B	・統合型校務支援システムの活用方法について、年間を通しての研修は実施できなかったが、日常的な活用の中で、職員間で教え合うなどして定着してきている。 ・活用方法の提示については、職員に、分かりやすく、定期的に提示できたので、継続していきたい。

今後の対応について

学校評価委員会、学校関係者評価委員会において今年度の取組を踏まえた今後の対応について協議しました。保護者アンケートの結果に関する内容については以下のように考え、対応することとしました。

- (1) ニーズに応じた教育では、ICT 機器を活用し、児童生徒が分かる授業を展開し、個別最適な学びの実現に向けて努めたいと思います。
- (2) 安心・安全な教育環境について、病弱教育を担う本校として、感染症対策については関係医療機関と連携して引き続き十分な対応をしていきます。児童生徒の安全に配慮した校舎内外の環境整備については、現状の設備を最大限に活かし、児童生徒の実態に応じた環境整備に努めます。また、避難訓練や安全指導等を通じ、自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度を育成するよう努めます。
- (3) 関係機関との連携では、地域や医療機関と密な連携を実現できるよう、ホームページや各種たよりで本校の教育活動について発信し、地域との交流活動を推し進めていきたいと思っています。